

オンライン個人投資家向け
会社説明会

株式会社アンビスホールディングス

2021年5月19日

1 2021年9月期上半期決算概況

2 中長期目標の実現に向けて

3 参考資料

4 会社概要

21年9月期上半期業績 / 通期業績予想

(第2四半期実績) 営業利益

7.9億円

(第2四半期実績) 当期純利益

5.5億円

(上半期実績) 営業利益

15.1億円

(上方修正後予想対比 : +2.7億円/+22.6%)

(上半期実績) 当期純利益

11.1億円

(上方修正後予想対比 : +2.1億円/+23.4%)

(通期予想) 営業利益

26.1億円

(通期進捗率 : 57.8%)

(通期予想) 当期純利益

18.5億円

(通期進捗率 : 60.0%)

紹介元病院数
(例：神奈川県)

～100病院

新規入居者数
(定員数)

243名/月
(1,597名)

紹介会社経由
新規入居者数

4名/月

開設候補地
検討件数

～120件/月

医療従事者数
(入居者数)

1,386名
(1,244名)

派遣・紹介会社
利用割合
(介護士)

0%

注：2021年3月末時点のデータを記載

1

社会課題に支えられた成長市場

- ✓ 病院完結型から地域完結型医療へと変わりゆく時代の、民間発の慢性期・終末期医療のインフラ
- ✓ 患者・地域社会・医療関係者の3者全てに利益をもたらす社会課題解決型事業

2

蓄積された運営ノウハウを背景とした高い参入障壁

- ✓ 医師機能のアウトソーシングによる看護師中心の在宅型の“病床”のような医療施設の運営体制を確立
- ✓ 大きな需要がある首都圏だけではなく、参入障壁が高い地方都市への展開に成功

3

強靱なキャッシュ創出力に裏打ちされた高成長・高収益型ビジネスモデル

- ✓ 厳選された開設計画及び高い営業力に基づいた開設後の早期稼働率上昇及び早期黒字化
- ✓ 高い採用力、運営力に基づいた既存施設の高水準の稼働率維持及び稼働率に応じた人員管理



1. 2021年9月期上半期決算概況

- 既存施設の稼働率が安定稼働の目安である80~85%を上回る水準（88.4%）で推移し、新規施設の稼働率も順調に推移したことを踏まえ、上半期の業績は上半期予想対比大きく上振れて着地
 - ✓ 売上高：66.6億円（上半期予想対比+3.8%）
 - ✓ 営業利益：15.1億円（上半期予想対比+22.6%）
 - ✓ 当期純利益：11.1億円（上半期予想対比+23.4%）
- Amvis 2023目標の達成、中長期目標（100施設（定員5,000名）、売上高450億円、営業利益100億円）の早期実現を企図し、新株式発行及び株式売出しを実施
 - ✓ 目的：①成長資金の獲得及び、②株式流動性の向上及び投資家層の更なる拡大
 - ✓ 資金調達額：85.8億円 / 自己資本比率：53.5%（21年3月末時点）
- 上半期の新規開設は、計画通り6施設の開設及び1施設の増床を実施し、21年3月末時点において、35施設（定員1,597名）を運営
 - ✓ 21年9月期：第3四半期に6施設、第4四半期に1施設の開設を予定し、計13施設開設見込み
 - ✓ 22年9月期：既に6施設の開設を公表し、年間10施設程度の開設目安に向けて順調な進捗状況。今後開設確定次第、順次公表予定
- 新型コロナ禍においても、看護師中心の強固な医療体制を整備することで医療依存度の高い患者の受け皿として地域完結型医療の実現に向けて微力ながら貢献

注：

当期より控除対象外消費税等の会計処理に係る会計方針を変更したため、次頁以降の20年9月期の財務数値は当該会計方針の変更を遡及適用
詳細は、21年9月期第2四半期決算短信添付資料「1.四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」を参照

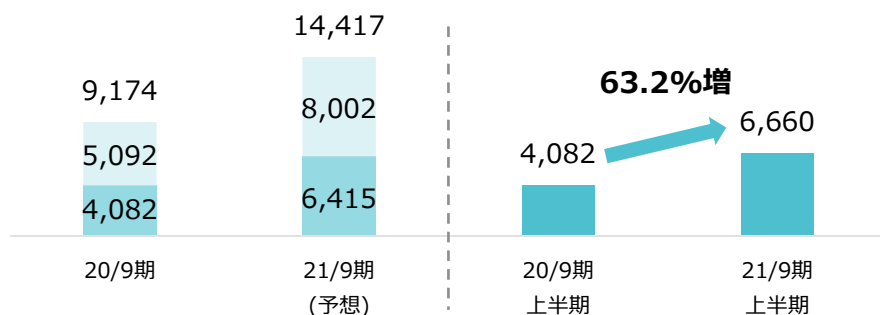
上半期実績及び上半期・通期予想に対する進捗

- ・ 上半期予想対比、営業利益及び当期純利益は20%超上振れ、通期予想対比でも順調に推移
- ・ 上半期は6施設の開設及び1施設の増床を実施し、下半期も計画通り7施設の開設を予定

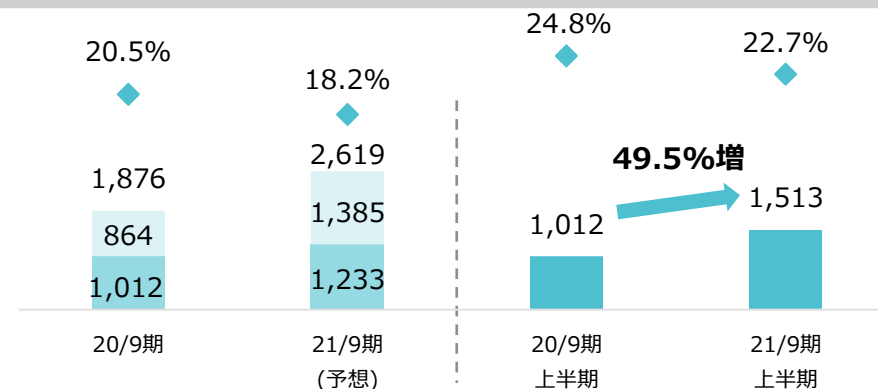
上半期実績及び上半期・通期予想に対する進捗

売上高

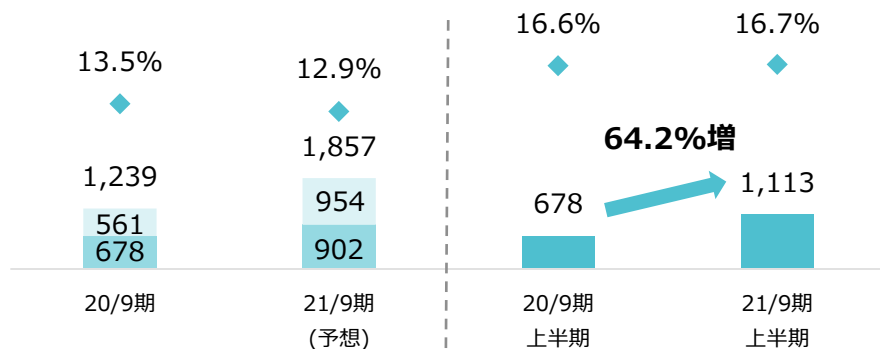
(百万円 / %)



営業利益

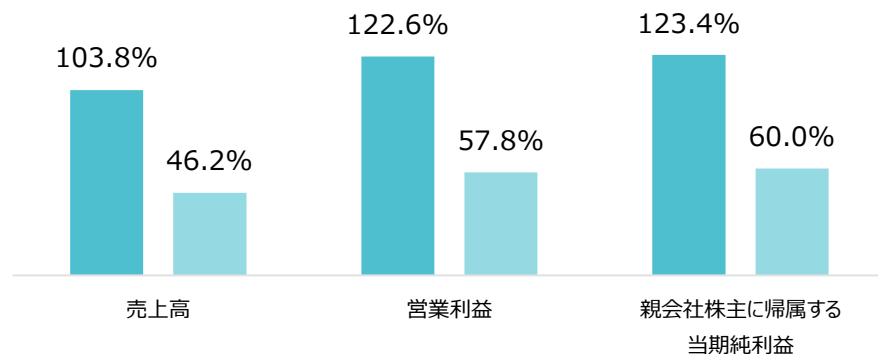


親会社株主に帰属する当期純利益



予想対比進捗率

■ 上半期予想対比 ■ 通期予想対比



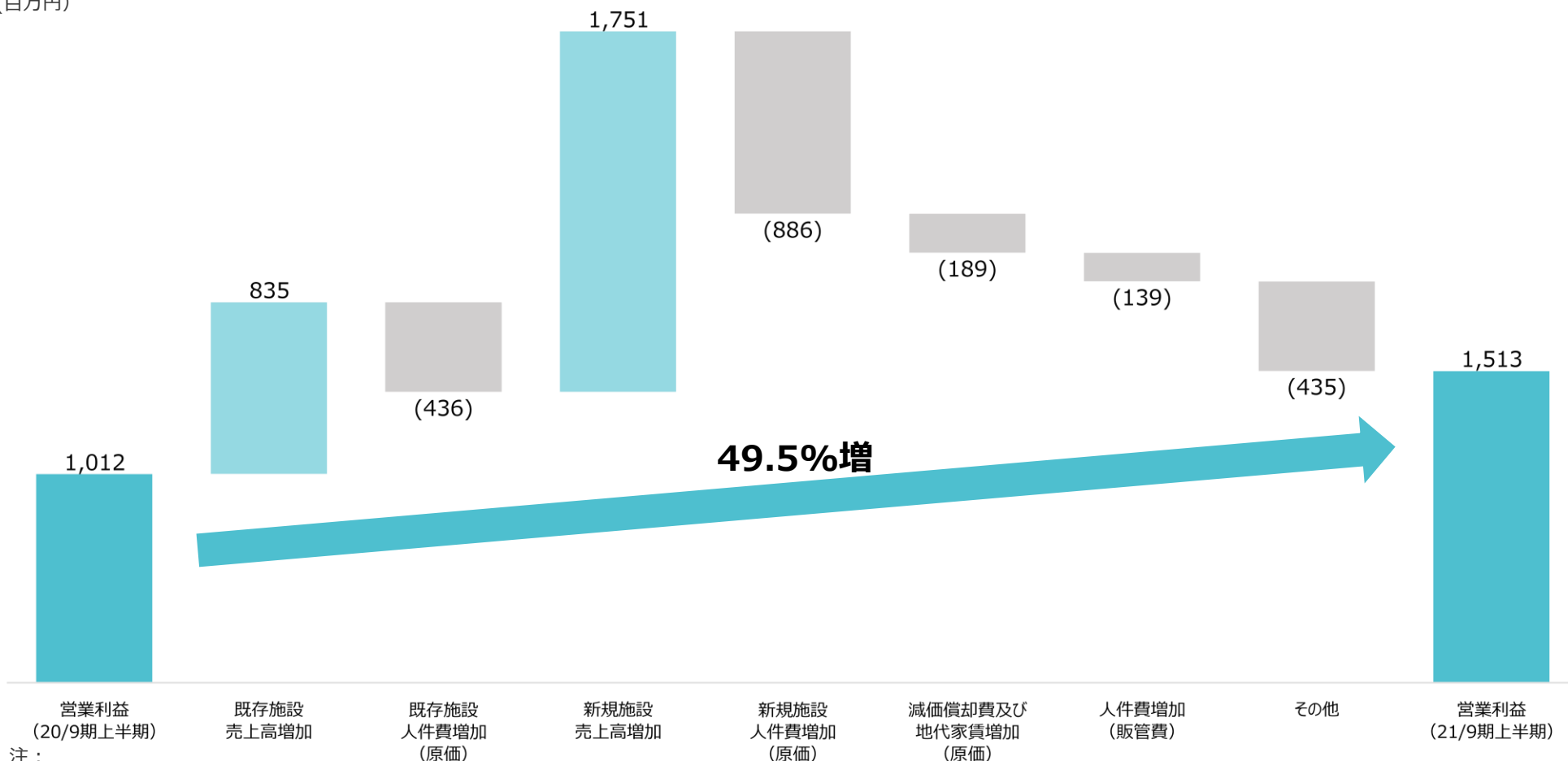
◆ 売上高比 ■ 上半期 ■ 下半期

上半期業績 – 営業利益推移

- 既存施設は安定稼働の目安（80～85％）を上回り、新規施設の稼働率（55％～60％）⁽¹⁾は順調に推移
- 施設数・定員数の増加に伴い、営業利益は比例して増加（20年3月末：23施設、21年3月末：35施設）

営業利益推移（20年9月期上半期 – 21年9月期上半期）

(百万円)

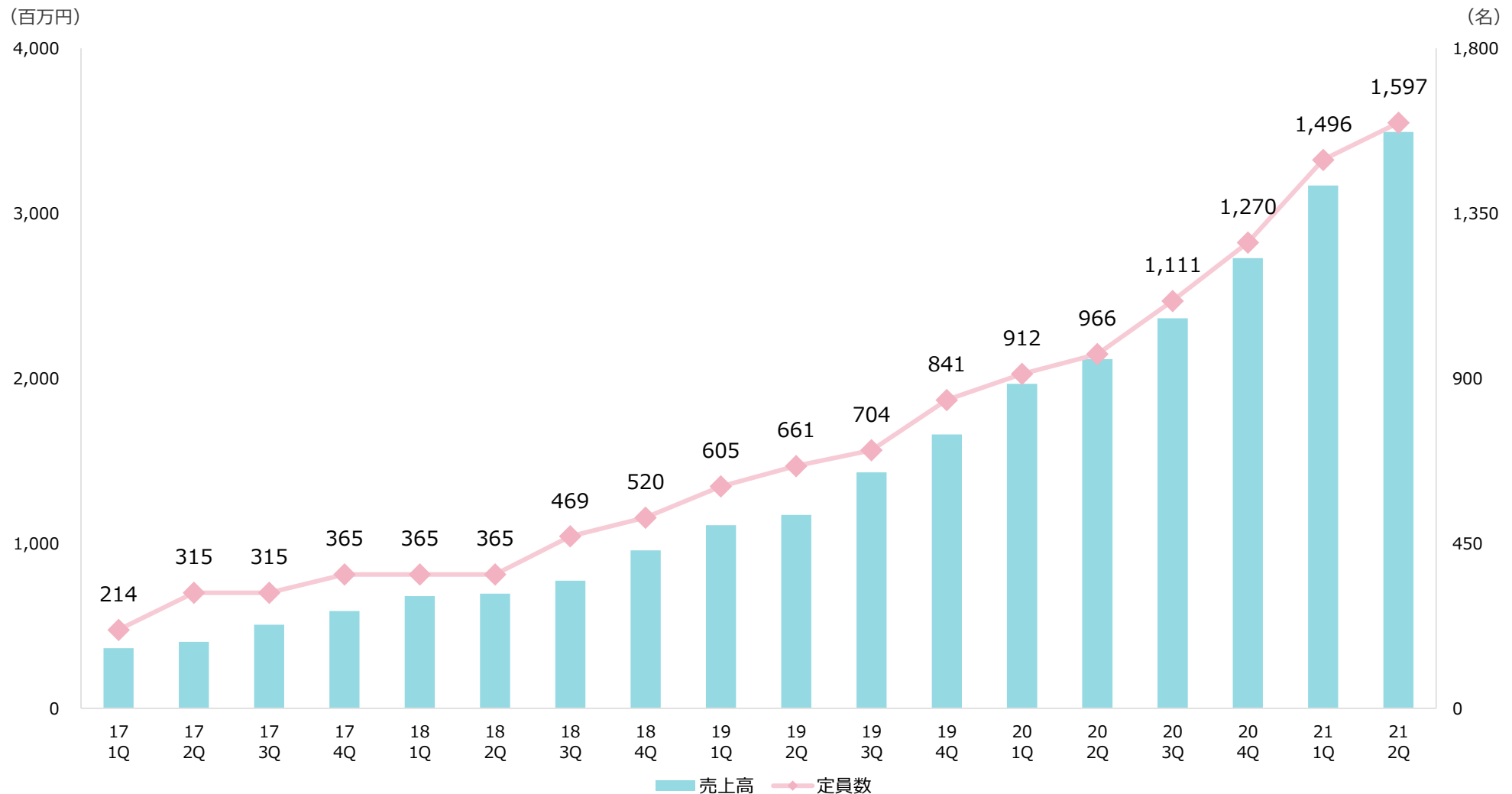


注：
1. 新規施設：20/9期上半期末にて未開設の施設（後頁同様） / 稼働率：中央値（3月末時点）



2. 中長期目標の実現に向けて

アンビスHD成長の軌跡



Amvis 2023目標

施設数 / 定員数

60施設 / 2,892名
(中長期目標 : 100施設 / 5,000名)

21年9月末 (予想) : 42施設 / 1,977名
20年9月末 (実績) : 29施設 / 1,270名

売上高

244億円
(中長期目標 : 450億円)

21年9月期 (予想) : 144億円
20年9月期 (実績) : 91億円

営業利益

51億円
(中長期目標 : 100億円)

21年9月期 (予想) : 26億円
20年9月期 (実績) : 18億円

当期純利益 年平均成長率

30%台後半
(中長期目標 : 20%台)

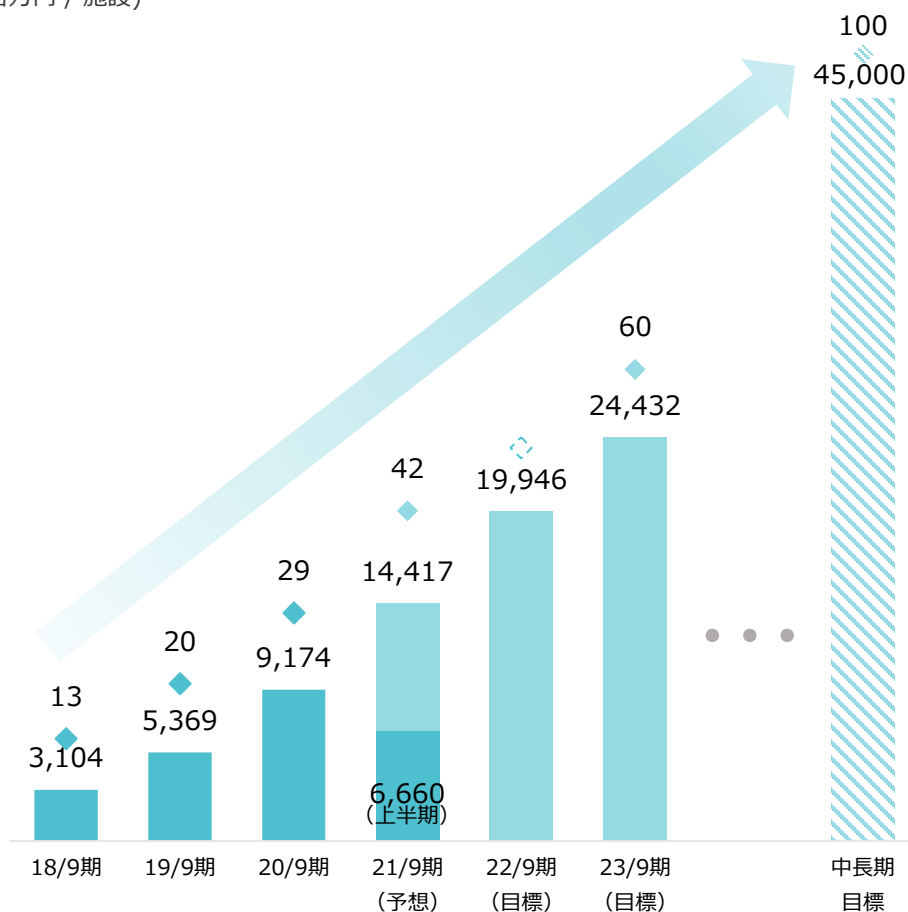
18年9月期 - 21年9月期 (予想) : 85%超

Amvis 2023 – 売上高 / 営業利益

- 売上高 / 営業利益は、過年度同様、順調に推移し、23年9月期まで高成長を維持・加速予定
- 新型コロナ禍においても、中長期目標を早期に実現するべく、運営体制の強化充実に注力

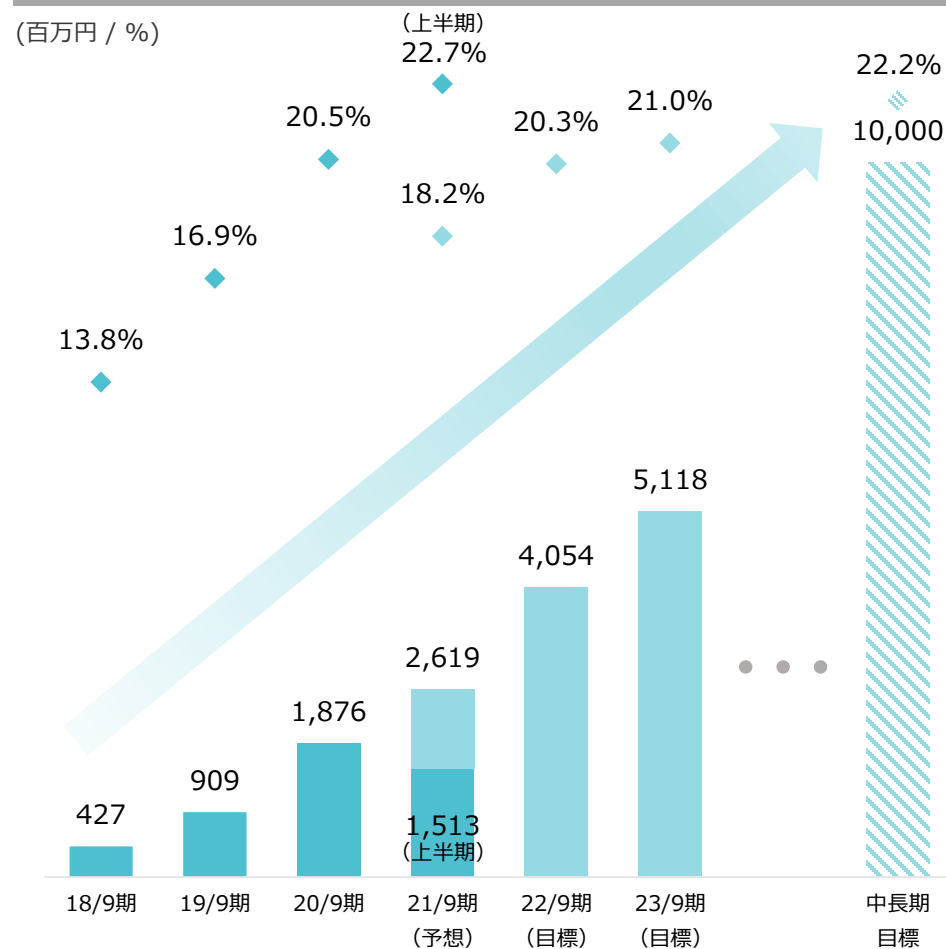
売上高 / 施設数の推移

(百万円 / 施設)



営業利益 / 営業利益率の推移

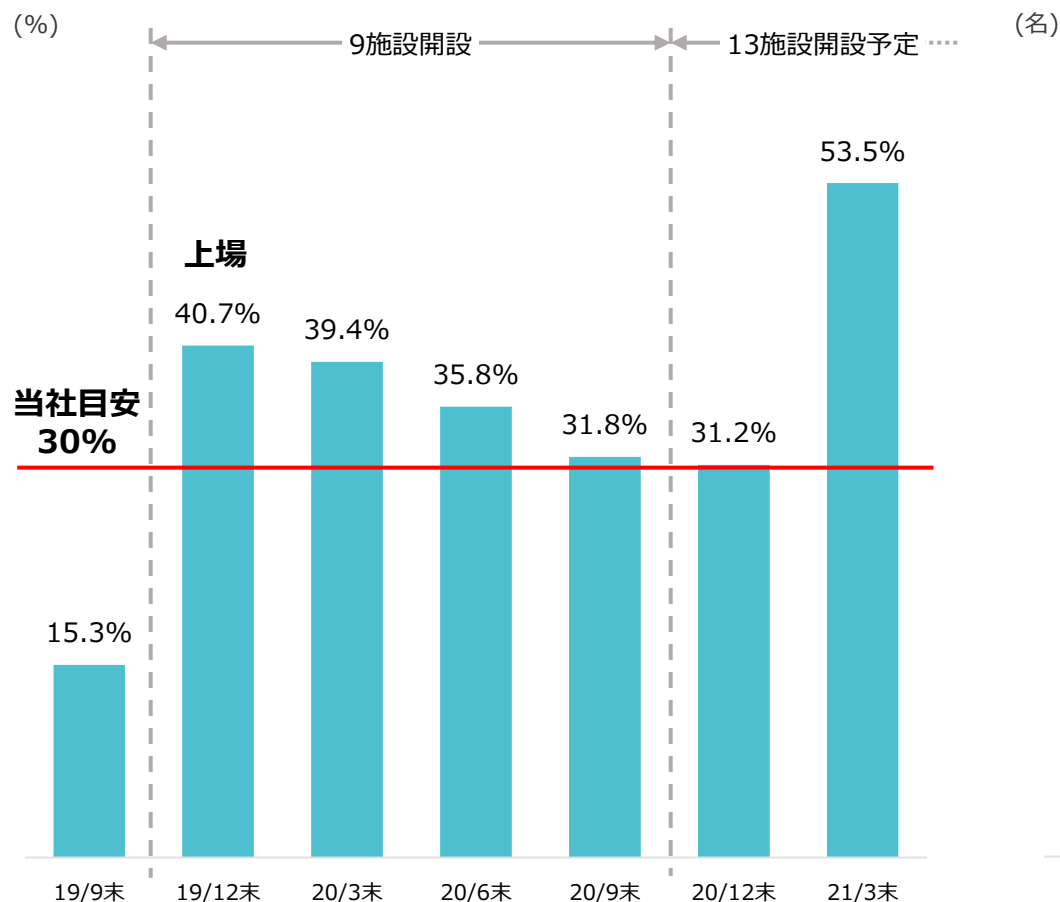
(百万円 / %)



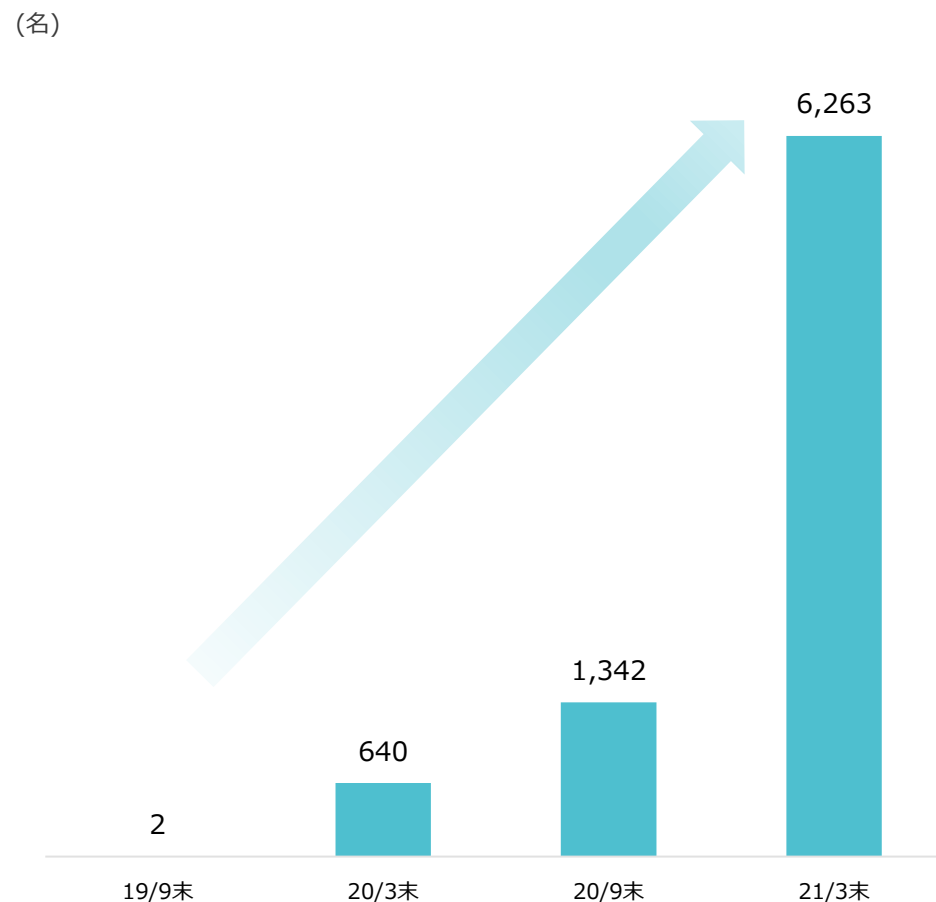
新株式発行及び株式売出し - 自己資本比率 / 株主数

- 21年3月に、①中長期目標を早期実現するための成長資金の獲得、②株式流動性の向上及び投資家層の更なる拡大を企図し、新株式発行（85.8億円）及び株式売出し（57.2億円）を実施
- 個人投資家及び海外機関投資家を中心に、株主数は大きく増加

自己資本比率の推移

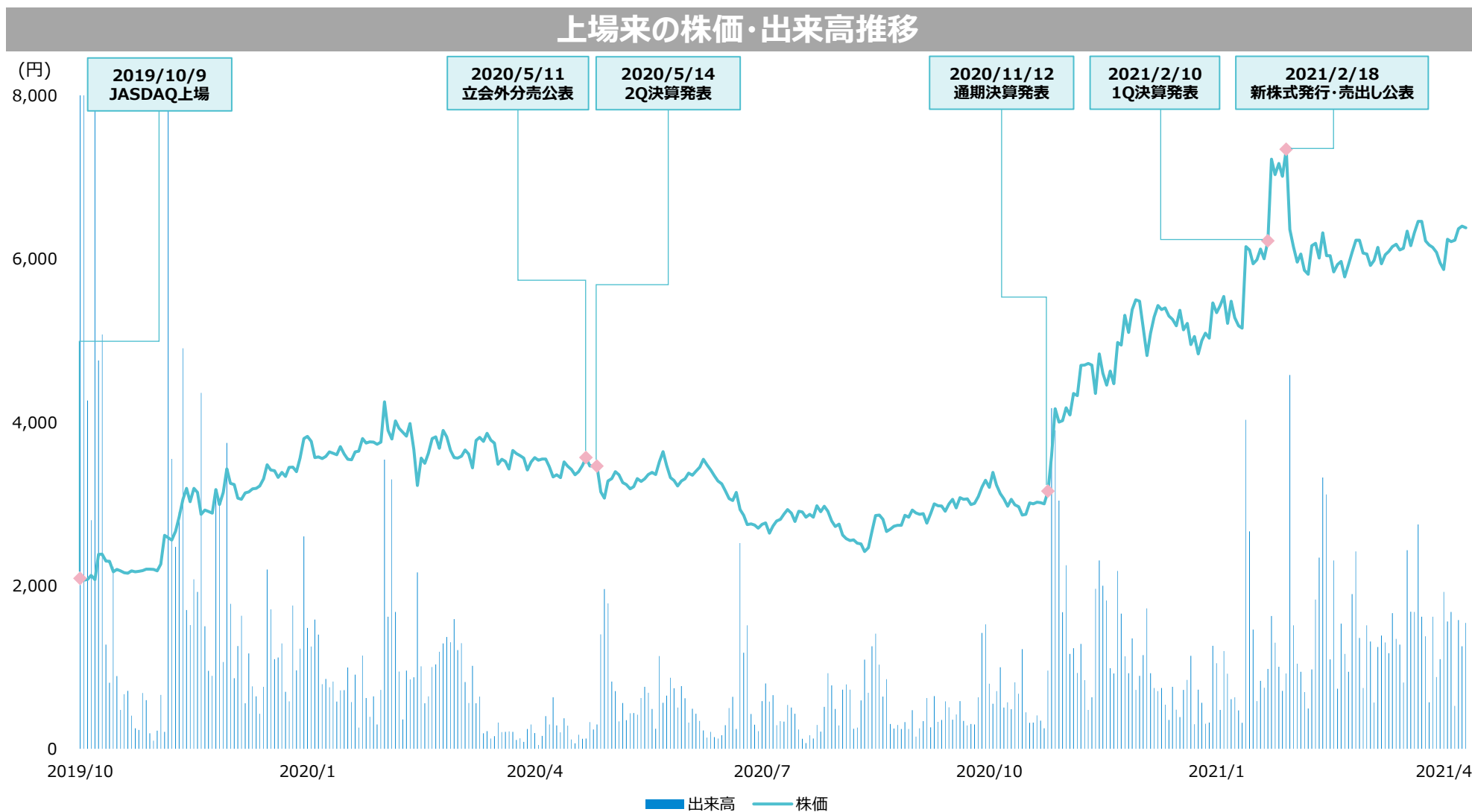


株主数の推移



新株式発行及び株式売出し － 上場来の株価・出来高推移

- 20年9月期の通期決算及び3ヶ年計画「Amvis 2023」の発表以降、株価は堅調に推移
- 新株発行・売出し公表後、株価は下落したものの、1Q決算発表時の水準を維持

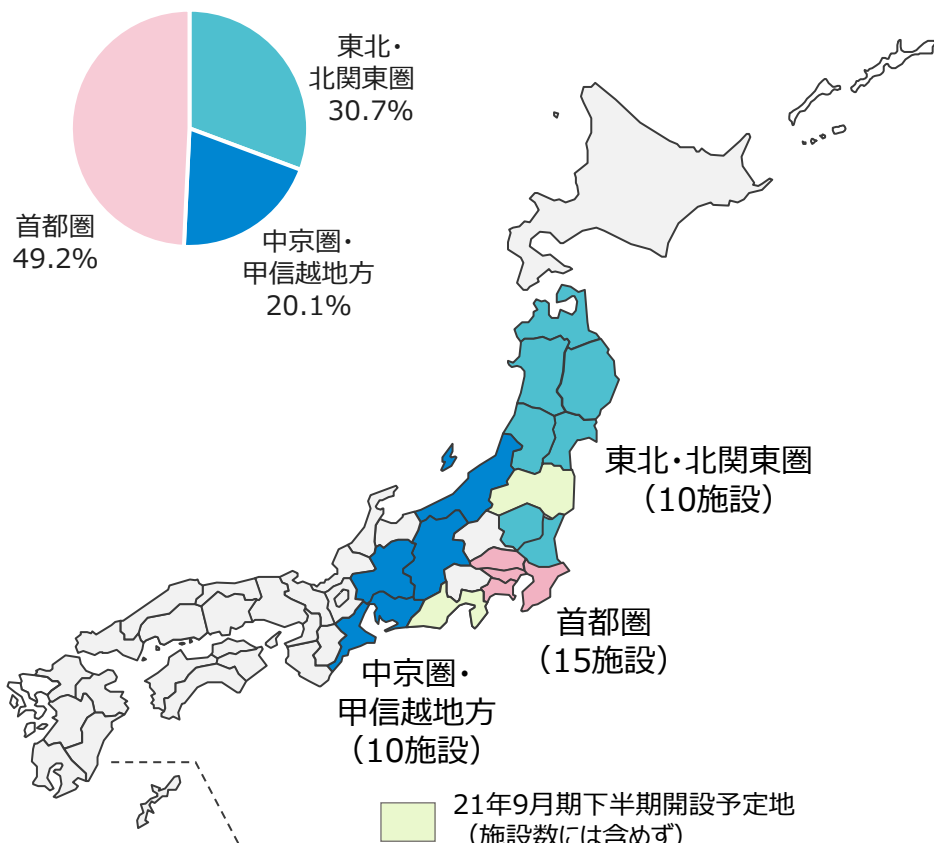


開設戦略 – 展開地域の拡大及びドミナント展開の加速

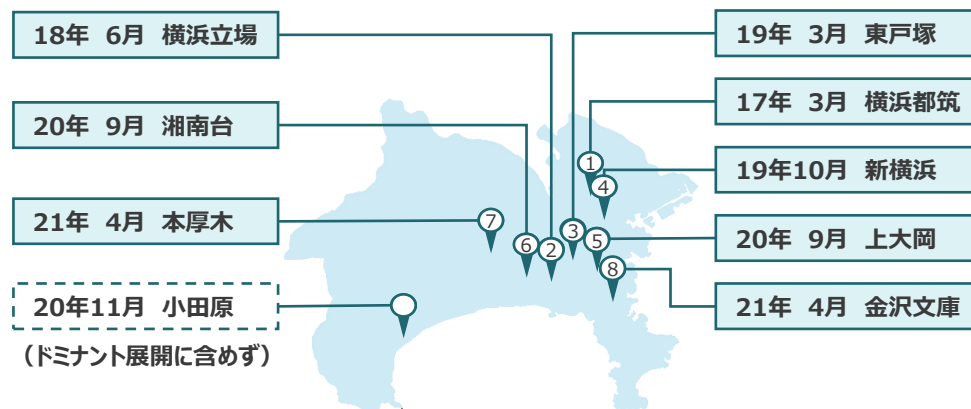
- 21年9月期は長野県、千葉県、秋田県、静岡県、福島県に新規進出
- 今後も未進出地域への展開を積極的に進めるとともに、埼玉県、千葉県、東京都含む首都圏において神奈川県と同様にドミナント展開を加速

展開地域の拡大

売上高（21年9月期上半期）

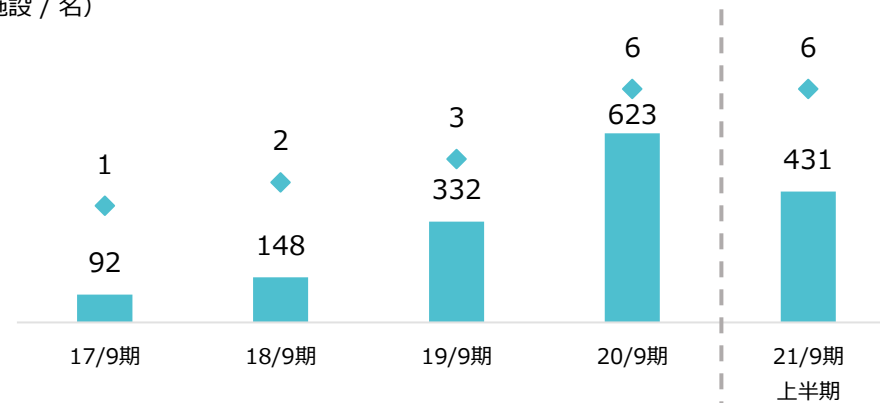


ドミナント展開の加速（神奈川県）



施設数 / 新規入居者数の推移（神奈川県）

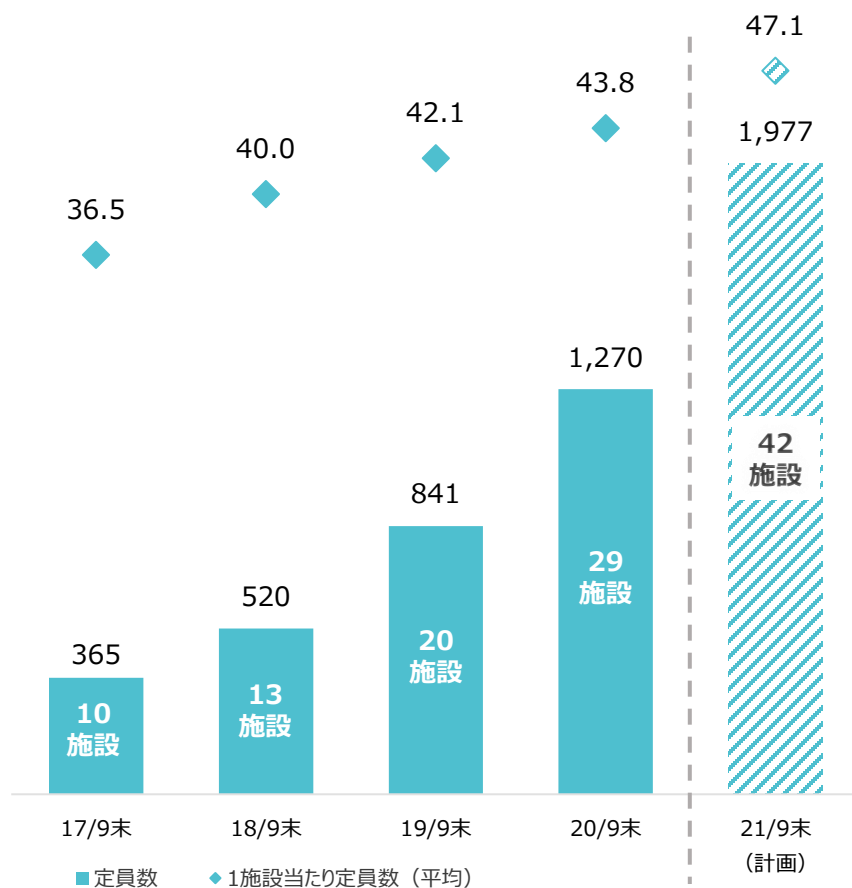
(施設 / 名)



- 営業力及び運営力の向上により、1施設当たりの定員数を拡大
- 終末期の入居者が多いため、安定稼働の目安は引き続き稼働率80～85%として設定

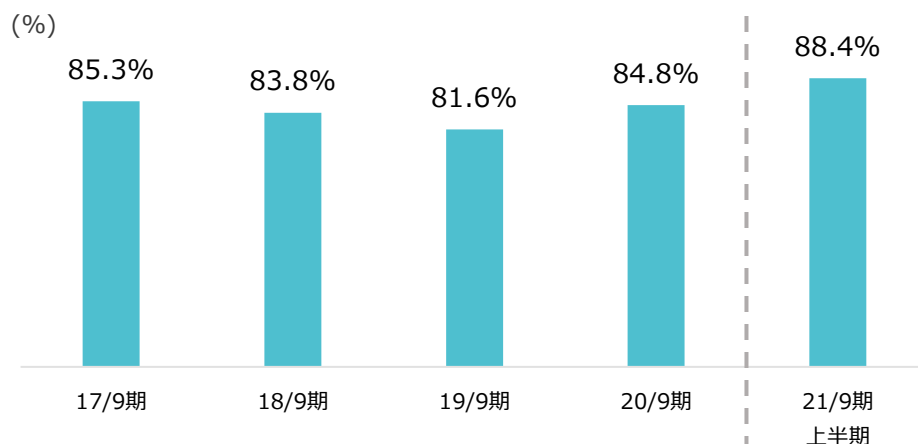
施設数・定員数の推移

(名)



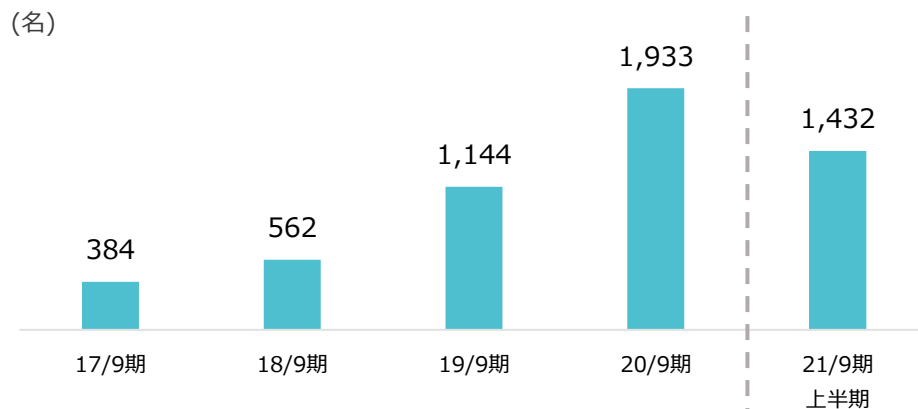
(既存施設) 稼働率の推移

(%)



新規入居者数の推移

(名)



開設・運営戦略 – 案件発掘から安定稼働に至るまで

- 新規開設の約2年前から市場調査、案件調査含め入念に検討した上で開設を決定
- 開設後、稼働率に応じた人員管理を行うことで4~6ヶ月で単月黒字化、10~12ヶ月で累積黒字化を実現

案件発掘～開設

～2年前：開設候補地域の市場調査開始

- 医療圏、人口動態、医療資源を踏まえたホスピスの需要調査
- 地域病院、往診医との信頼関係を構築

2年前～1年前：土地・建物の案件調査

- 立地・面積・運営動線・開設方式・投資額等の条件をもとに判断
- 入居・採用調査を踏まえ、開設地を決定

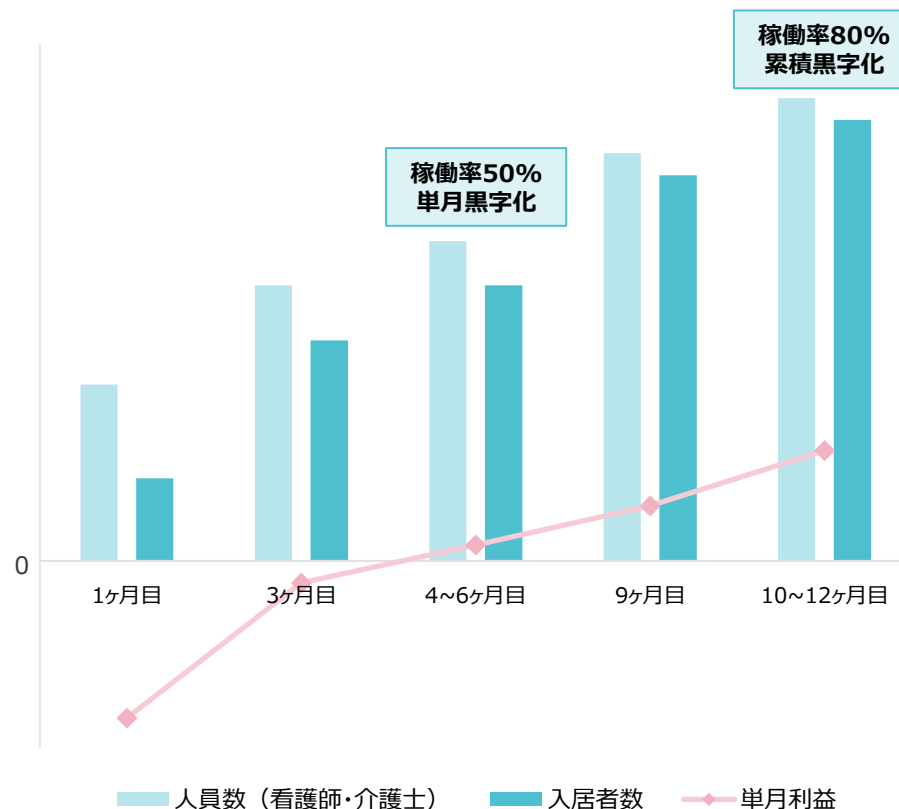
1年前～6ヶ月前：開設リリース / 建築工事開始

- 開設の確度が高まった段階で開設の決定をリリース
- リリース後、開設に向けて採用開始

3ヶ月前～：開設前営業活動開始

- 地域病院への本格的な営業を強化し、入居促進を開始
- 本社・他施設からの応援要員と連携し、開設に向けて準備

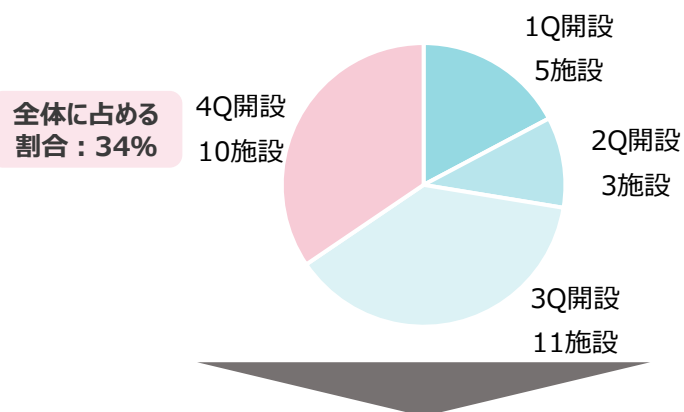
開設～安定稼働（ベースケース）



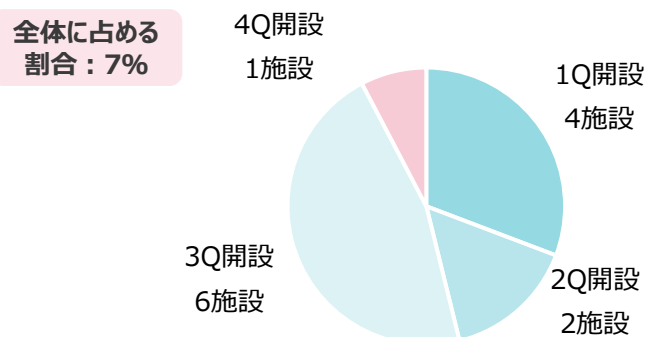
- 今後は、新規開設は第3四半期までに集中させ、第4四半期は運営体制の強化充実に注力する方針
- 各施設に施設長は置かず、本社に看護介護部を設置し本社集約体制を敷くことでケアの質を維持・改善

開設時期の変更

20年9月期以前（開設数：29施設）



21年9月期（開設数：13施設）



運営体制の強化充実にに関する具体的施策

本社集約体制

- 各施設において、看護師・介護士が入居者に対するケアに専念できる体制を構築
- 主なコーポレート機能である、営業、売上管理、採用、人材管理、物品管理等は全て本社に集約し、各施設に施設長は置かない方針で運営

看護介護部設置

- 本社に設置された看護介護部が、各施設が確り運営できるように指示・教育・調整を実施
- 訪問看護のリーダーの業務支援、運営マニュアル作成、新規入職者のオリエンテーション、新規開設支援、シフト管理等、幅広い分野で各施設をサポート

新型コロナ対策

- 新型コロナ対策に詳しい看護師からなる「感染対策本部」のリーダーシップのもと、全施設の職員・入居者に対して、一括して指示・教育し、標準感染予防策（スタンダード・プリコーション）を徹底

運営戦略 – 病床の補完施設として入居対象者層を拡大

- 通院や定期的な入院で治療が必要な方や、特別な管理を必要としない投薬の継続
- CV管理、ドレーン類全般の管理の他、輸血、がん治療、術後管理、麻薬管理等、様々な医療処置に対応

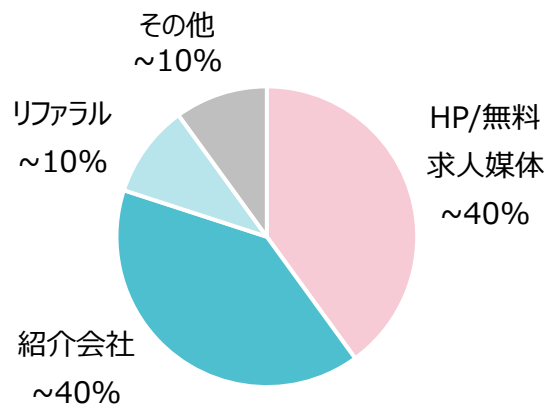
治療中の入居者（例）		医療処置が必要な入居者（例）	
入居者A (抗がん剤)	1. 病名：腎細胞がん肺転移 2. 入居前状況：通院にて免疫チェックポイント阻害薬投与 3. 入居後対応：入居後も通院が難しくなるまでは定期的な通院にてオプジーボの投与を継続	入居者D (輸血)	1. 病名：多発性骨髄腫 2. 入居前状況：輸血治療 3. 入居後対応：輸血治療の継続
入居者B (抗がん剤)	1. 病名：食道癌・前立腺癌 2. 入居前状況：定期的入院にて抗がん剤投与 3. 入居後対応：定期的入院にてF P療法（5-FU、シスプラチン）、腎瘻交換を継続	入居者E (人工呼吸器)	1. 病名：直腸癌・肺癌 2. 入居前状況：直腸癌の手術後に肺癌もあることが判明。誤嚥性肺炎も併発し、呼吸状態が悪化し人工呼吸器装着 3. 入居後対応：在宅用の呼吸器に変更し対応
入居者C (放射線)	1. 病名：前立腺癌骨転移 2. 入居前状況：通院にて緩和照射 3. 入居後対応：通院して緩和照射を継続	入居者F (術後管理)	1. 病名：肝内胆管癌 2. 入居前状況：トルソー症候群 3. 入居後対応：入院中はヘパリン持続点滴していたが、グリセリン投与に切り替えて対応

採用戦略 – 看護師・介護士の厳選採用

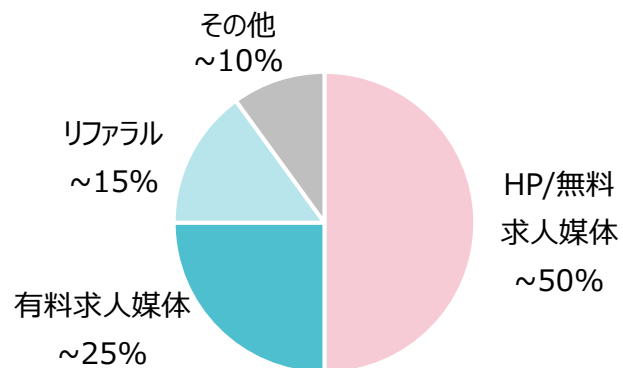
- 看護師は地方都市中心に引き続き紹介会社を利用するが、介護士は紹介会社を利用しない採用体制の構築に成功。また、看護師及び介護士ともに派遣会社は利用せず
- 特に、看護師は即戦力となる拠点病院での勤務経験者を中心に、内定率は25%程度と厳選採用を実施

職種別採用経路

看護師

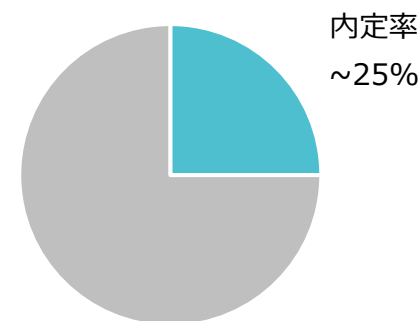


介護士

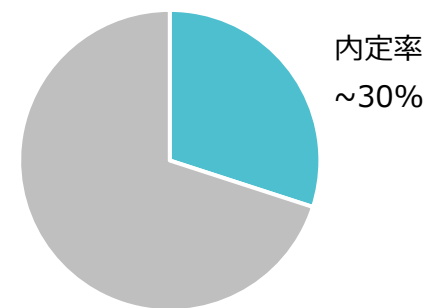


職種別内定率

看護師



介護士





3. 参考資料

- 21年9月期は5県に初進出し、全施設において2番目に大きい規模（定員80名）の金沢文庫を開設
- 22年9月期は首都圏の開設比率を高め、ドミナント形成を加速する方針

直近のトピック

秋田、浜松、福島	県内初開設
本郷	他の介護事業者との初の共同運営
金沢文庫	定員80名の大型施設（全体で2番目の規模）

21年1月以降の開設計画

開設時期	開設場所	総定員数 (名)
21年2月上旬	四日市Ⅱ、秋田	101
21年4月上旬	本厚木、山形Ⅱ	103
21年4月中旬	金沢文庫、本郷（共同運営）	122 ⁽¹⁾
21年5月上旬	蘇我、浜松	103
21年7月上旬	福島	52
21年10月上旬	瑞江、越谷、上尾、柏	210
21年11月上旬	青森、東大宮	102

注：

1. 本郷の定員数42名のうち、開設後半年は28名定員で運営予定

全国の医心館



計48施設
定員2,289名予定
(21年11月時点)

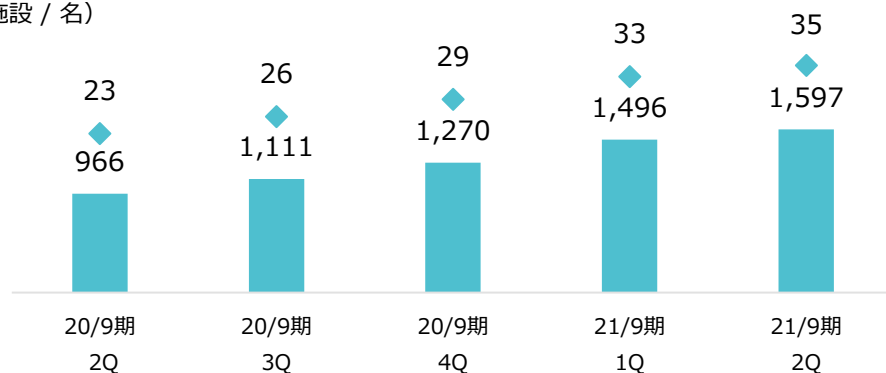
四半期業績推移 – 主要財務指標

- 施設数・定員数の増加に伴い売上高は順調に推移し、既存施設の稼働率も好調であったことから、営業利益は第1四半期を上回って着地
- 営業利益率は、新型コロナ拡大前の水準には届かないものの、第1四半期に引き続き高水準を維持

直近1年間四半期業績推移

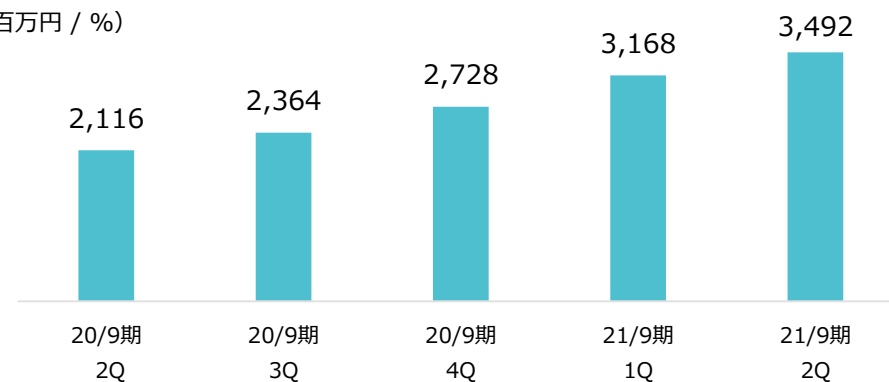
施設数 / 定員数

(施設 / 名)

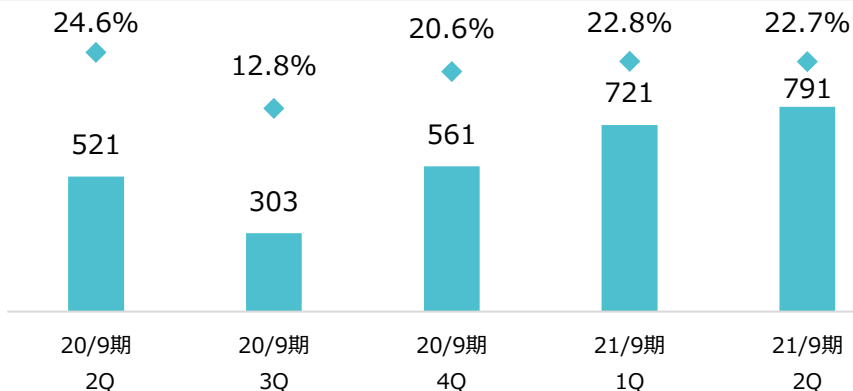


売上高

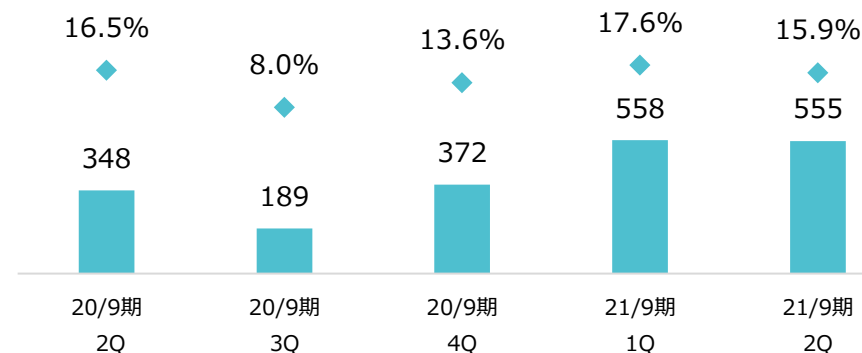
(百万円 / %)



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



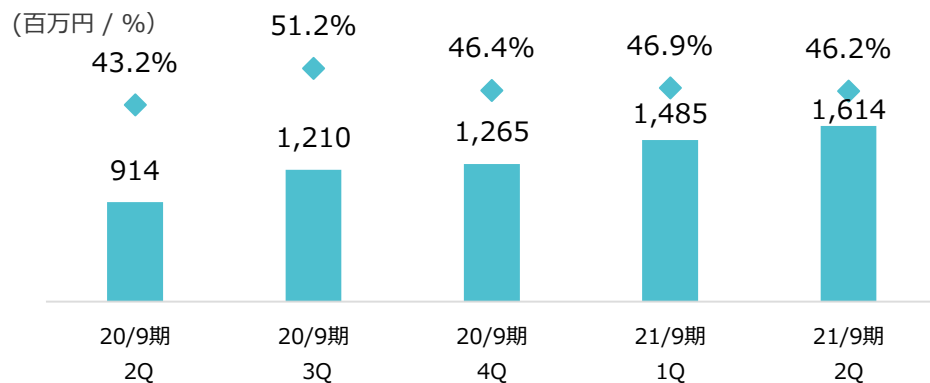
◆ : 売上高比

四半期業績推移 – 主要売上原価 / 販管費

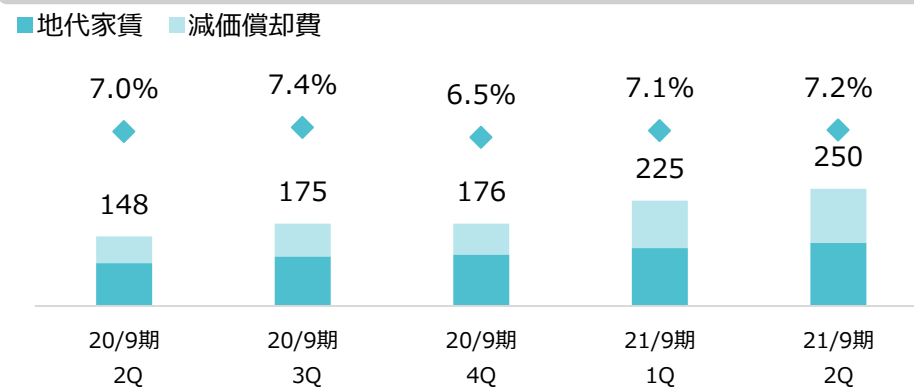
- 看護師・介護士に関する人件費率（売上原価）は新型コロナ対策として人員数を大幅に増加させた20年9月期第3四半期以降、46%台を維持
- 採用費は人員数増加とともに増加傾向だが、売上高比では前年同期と同水準を維持

直近1年間四半期業績推移

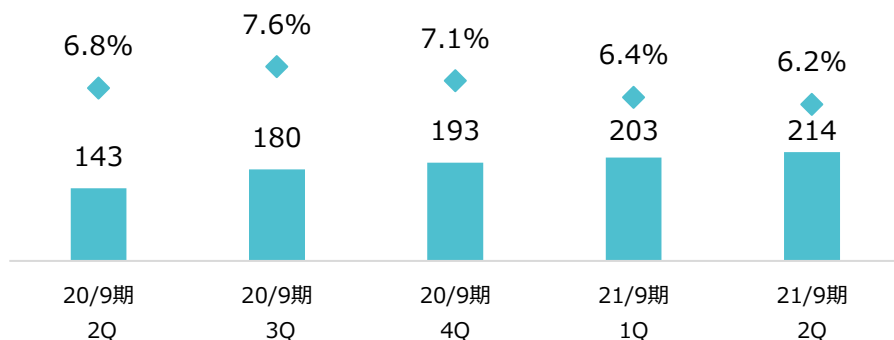
人件費（売上原価）



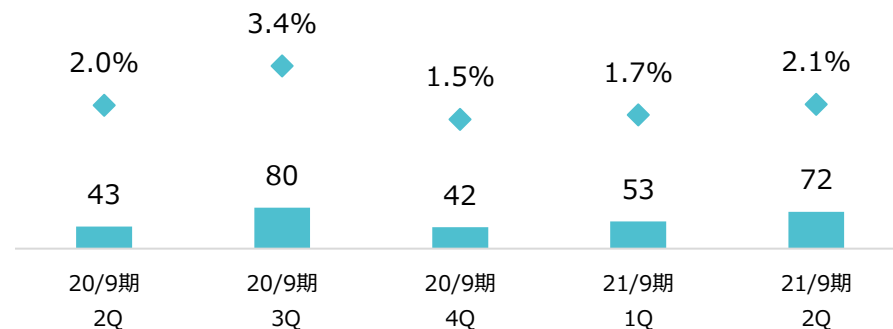
地代家賃及び減価償却費（売上原価）



人件費（販管費）



採用費（販管費）



◆ : 売上高比

財政状態及びキャッシュ・フロー概要

- 21年2月に公表した新株式発行を経て、自己資本比率は大幅に改善し、現預金残高は増加
- 建物及び構築物残高は、新規開設を踏まえ、引き続き増加傾向にあり

財政状態及びキャッシュ・フロー概要

(百万円 / %)	19/9末	20/9末	21/3末	対20/9末 増減	(百万円)	19/9期	20/9期	21/9期 上半期
資産	6,997	16,519	27,680	+67.6%	営業キャッシュ・フロー	445	1,165	826
現金及び預金	452	3,335	11,096	+232.6%	投資キャッシュ・フロー	(1,139)	(5,304)	(2,932)
建物及び構築物（純額）	753	3,548	6,941	+95.6%	有形固定資産の取得による支出	(1,184)	(4,947)	(2,748)
負債	5,926	11,264	12,858	+14.2%	財務キャッシュ・フロー	660	7,021	9,865
借入金	2,080	6,250	7,747	+24.0%	借入金の純増減額	702	4,169	1,497
純資産	1,070	5,255	14,822	+182.0%	現金及び現金同等物の増減額	(33)	2,882	7,760
自己資本比率	15.3%	31.8%	53.5%	+21.7pt	現金及び現金同等物の期末残高	452	3,335	11,096

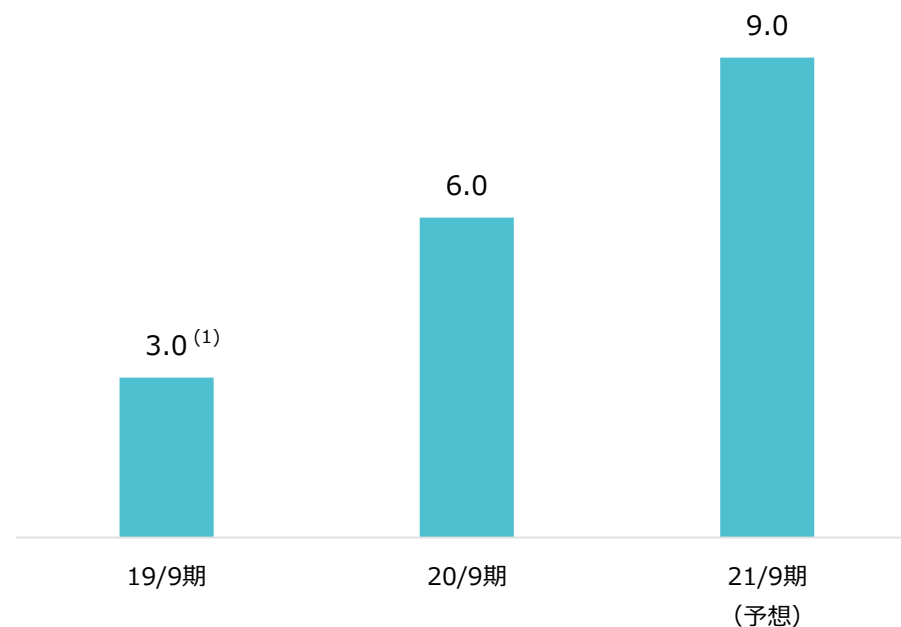
- 21年9月期の1株当たり配当金は前年度対比3円増配の9円を予想
- 引き続き成長の加速化と株主還元のバランスを考慮し、企業価値の向上を企図

株主還元基本方針

- 株主に対する利益配分を重要な経営課題として捉え、医心館事業及びその周辺領域への事業展開と経営基盤の強化を図るための内部留保資金を確保しつつ、株主還元を実施し、企業価値の向上を企図
 - 株主配当：安定的な株主配当を基本とし、市場環境、規制動向、財務健全性等、総合的に勘案し、年1回の期末配当を実施

1株当たり配当金の推移

(円)

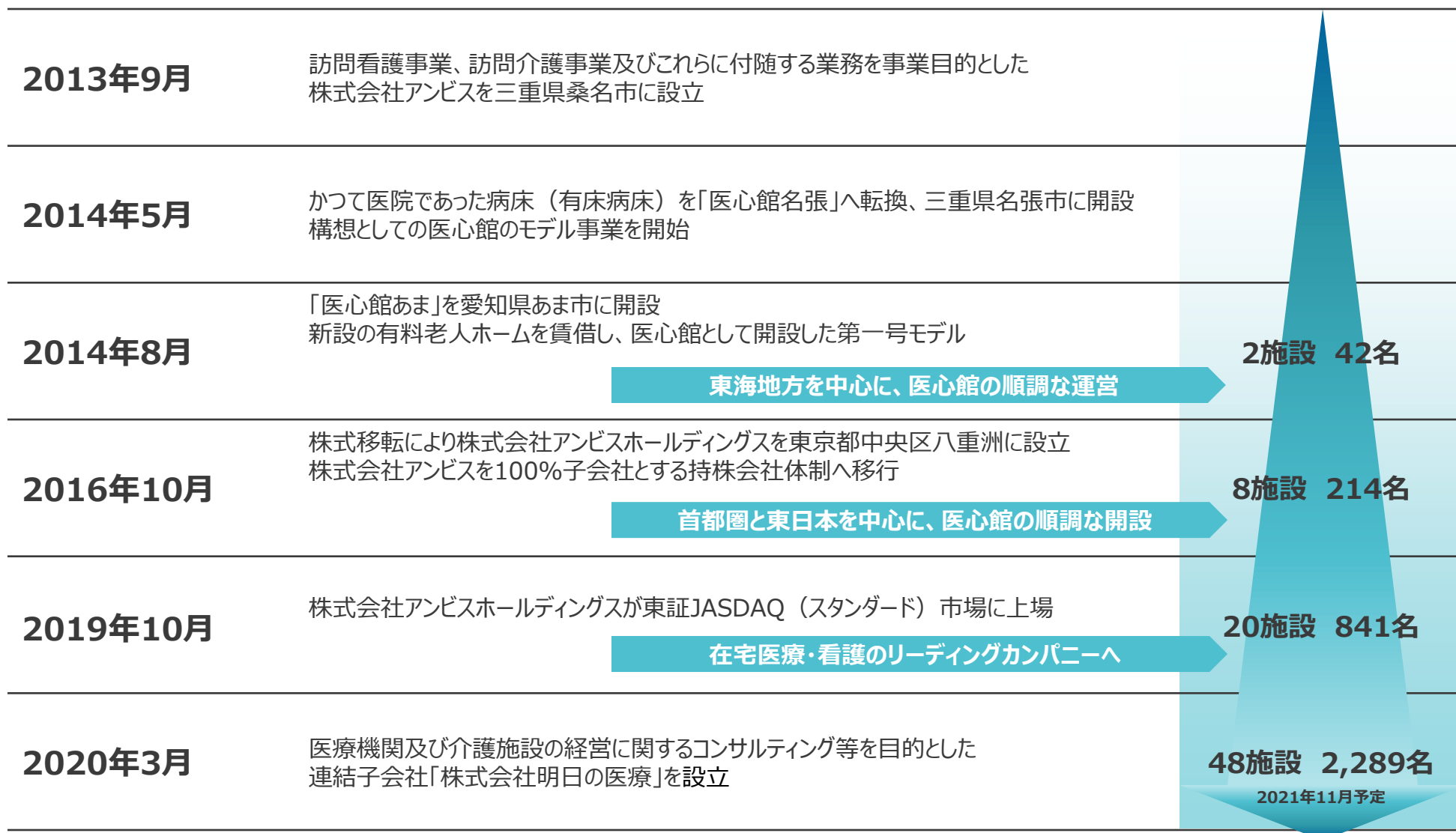


注：

1. 20年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っているため、分割を考慮しない場合の配当金は6.0円



4. 会社概要



経営ミッション

志とビジョンある医療・介護で社会を元気に幸せに

仕組みのイノベーションにより、直面する社会（医療）課題を解決

事業ミッション

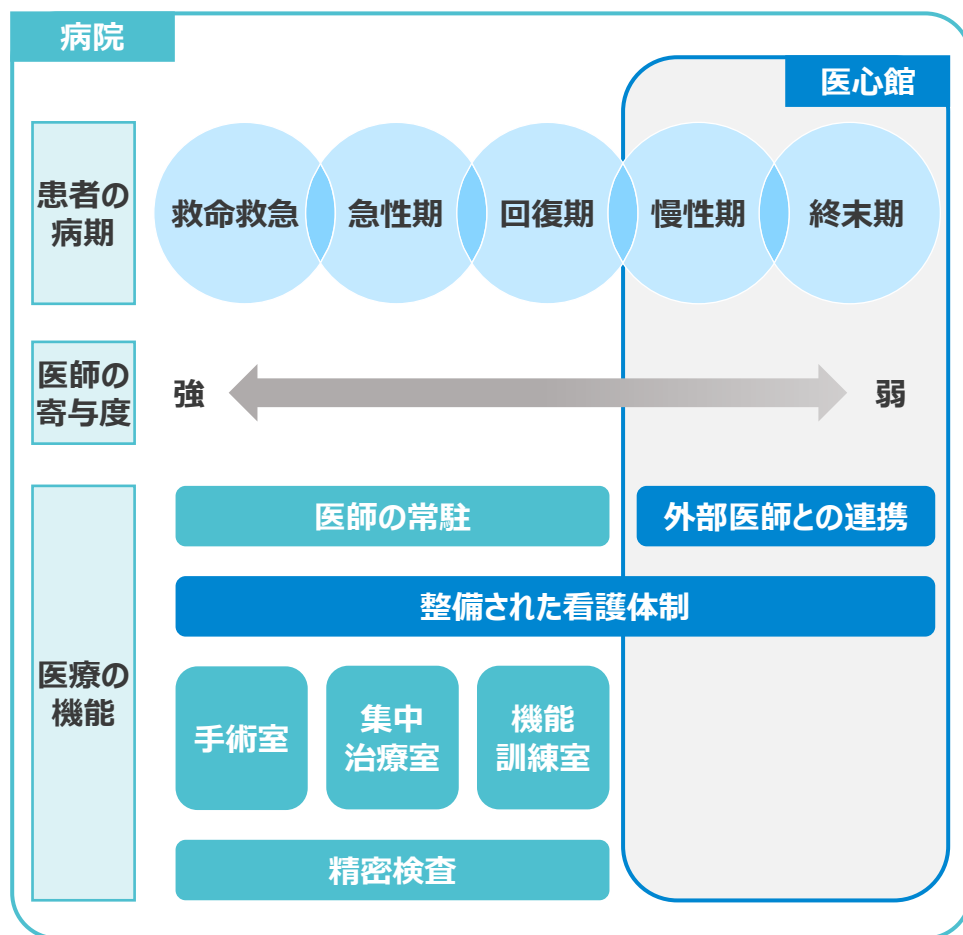
地域医療の強化・再生

慢性期・終末期の看護・介護ケアに特化したホスピス「医心館」を運営し、
医療依存度が高い方々の受け皿を提供

医心館事業概要 – コンセプト・特徴 / 収益構造

- ・ 医心館は、医師の機能を外部の主治医にアウトソーシングすることで、高度な看護ケアに注力した在宅型の“病床”のような新奇な医療施設
- ・ 既存の制度（有料老人ホーム事業、訪問看護・介護事業、居宅介護支援事業）に基づいた事業

コンセプト



主な特徴

人員体制	・ 入居者とはほぼ同数の看護師・介護士を配置し、手厚い看護・介護体制を構築 ・ 医師等はアウトソーシング
主な入居対象者	・ 慢性期・終末期の患者 ➢ がん終末期の方、人工呼吸器装着・気管切開や特定疾患難病の方 ➢ 入退院を繰り返す方、看取り対応の方
医療関係者との信頼・協力関係	・ 医療依存度の高い患者の受入先となり、複数の医療機関からの信頼を獲得 ・ 主治医とは、資本関係なしに協力関係を構築（医療やケアの透明性の担保）

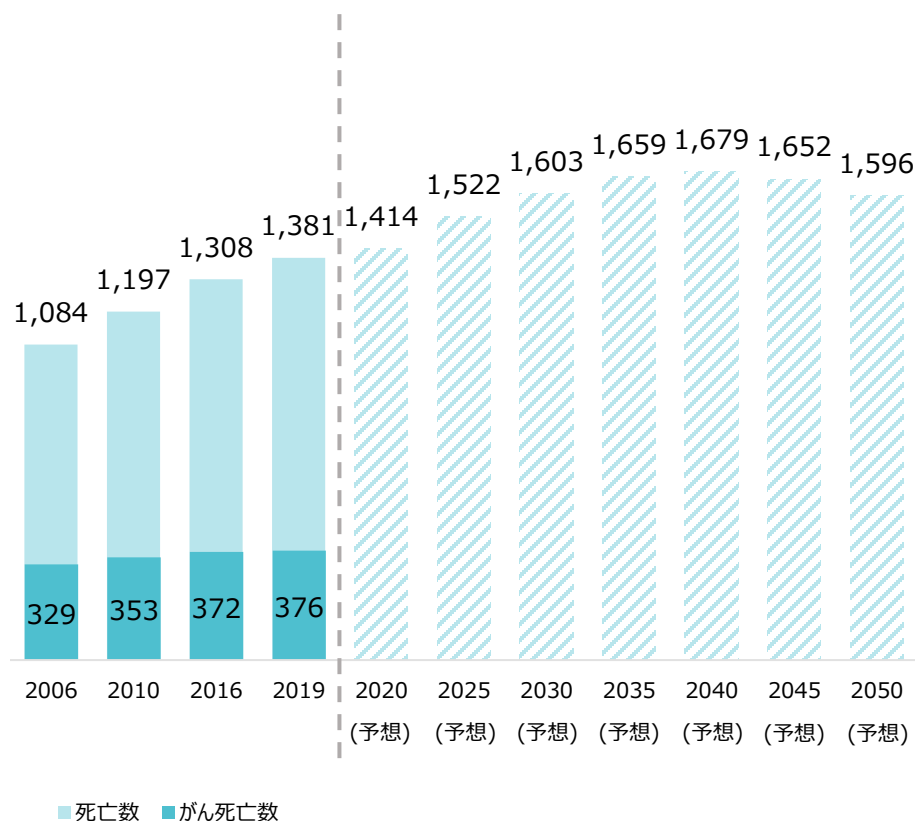
収益構造（三階建構造）

医療保険売上高	・ 医療保険による訪問看護サービス ・ 売上高の約6割を占める
介護保険売上高	・ 要介護度・地域区分により単位数が異なる ・ 売上高の約3割を占める
家賃・管理費実費売上高	・ 入居一時金なし ・ 食費、医療用消耗品等含む

- ・ 少子高齢多死社会が到来し、年間140万人（がんは40万人）が亡くなる時代に入
- ・ 病院完結型から地域完結型医療へと政策転換が進むなか、病院死数は2005年頃をピークに低下し施設死シフトが進行

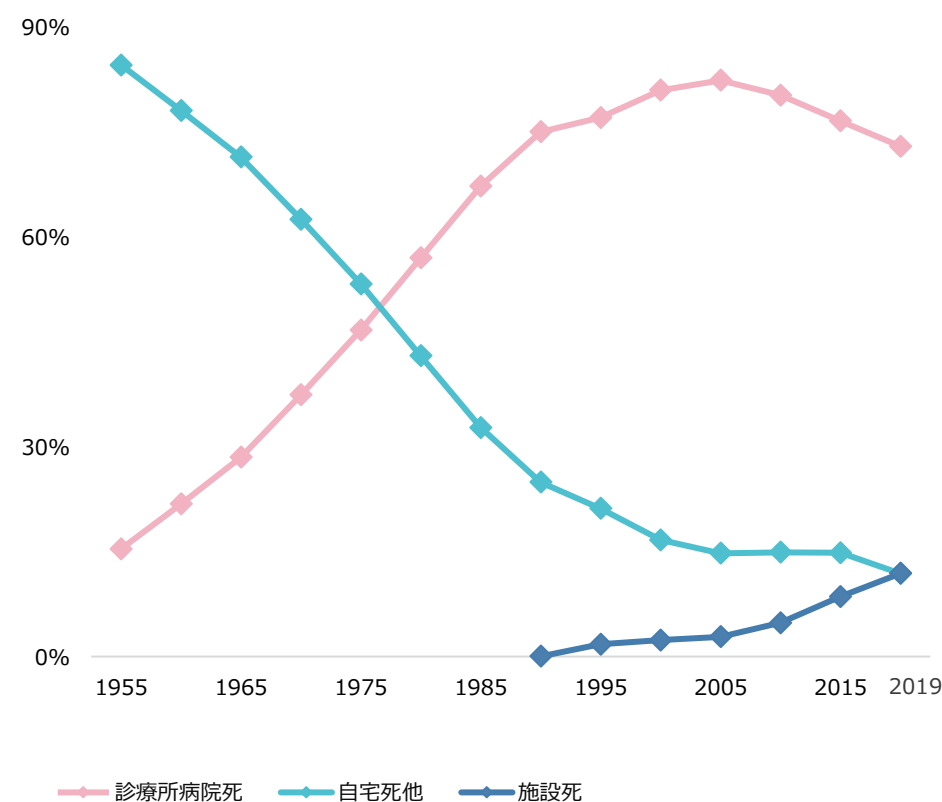
死亡数（全体・がん）の推移

(千人)



死亡場所（構成比）の推移

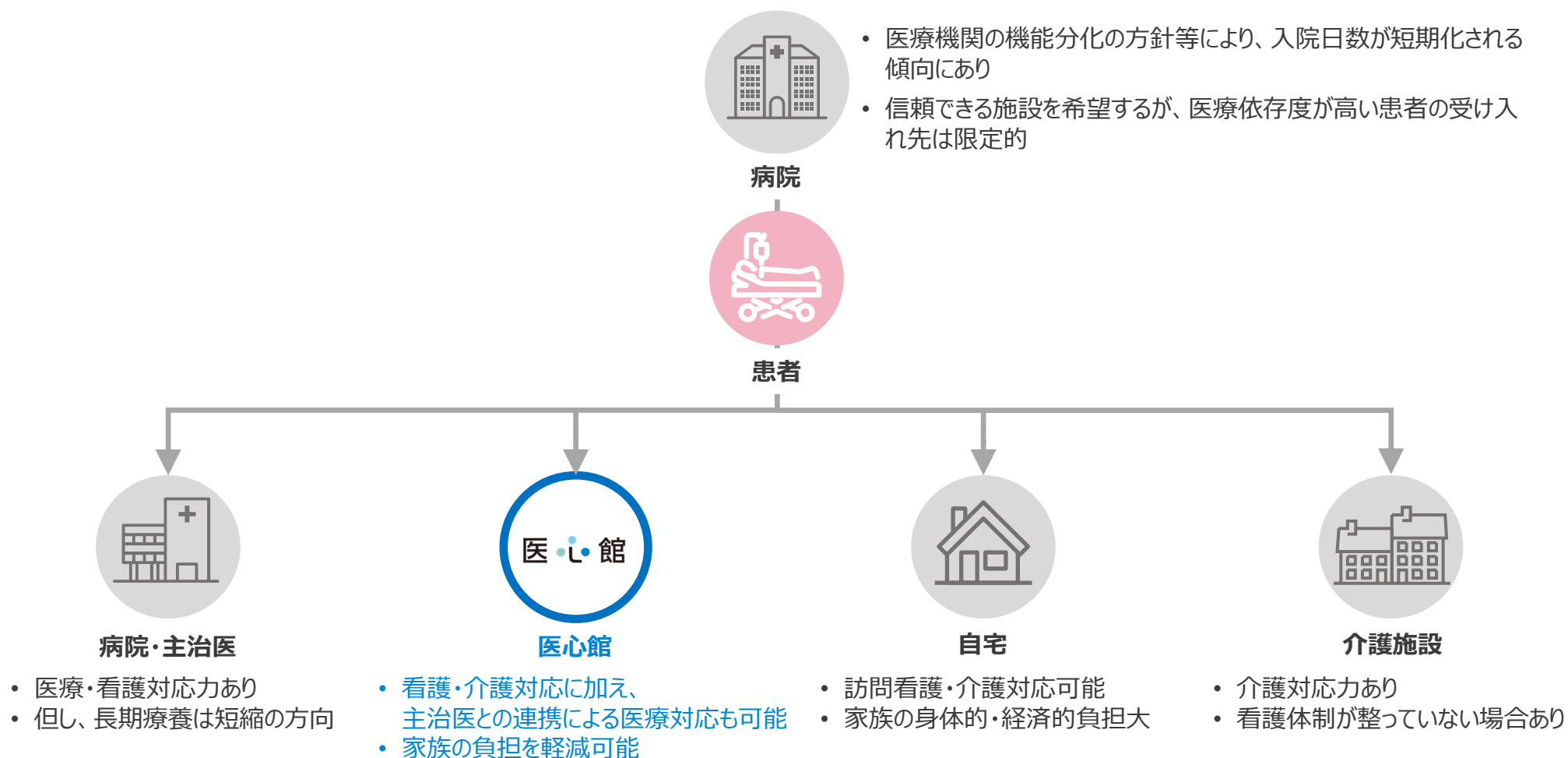
(%)



出所：厚生労働省 人口動態統計、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果（日本における外国人を含む）

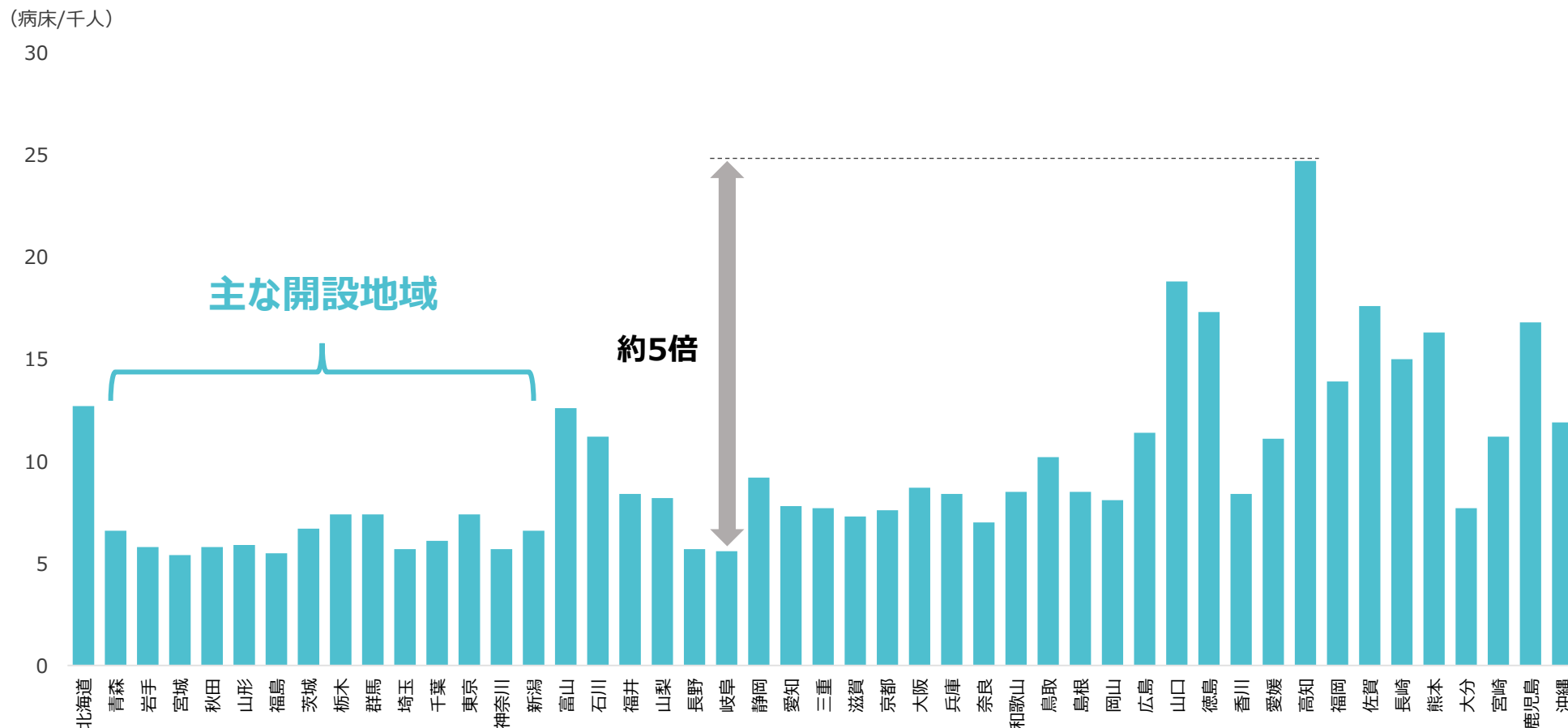
- 病院の入院日数短縮と在宅復帰政策が進むなか、医療依存度が高く受入先のない慢性期・終末期の方々の受皿として機能することで、地域医療・地域社会に大きく貢献

退院後の患者の受け入れ先



- 高齢者人口当たりの療養病床は、医師数や他の病床数同様、西高東低の傾向であることを踏まえ、医療資源が相対的に少ない首都圏・東日本中心に展開
- 入念な現地調査を行い、地域の医療ニーズの穴を探り当て、必要とされる場所に必要な役割の医心館を開設

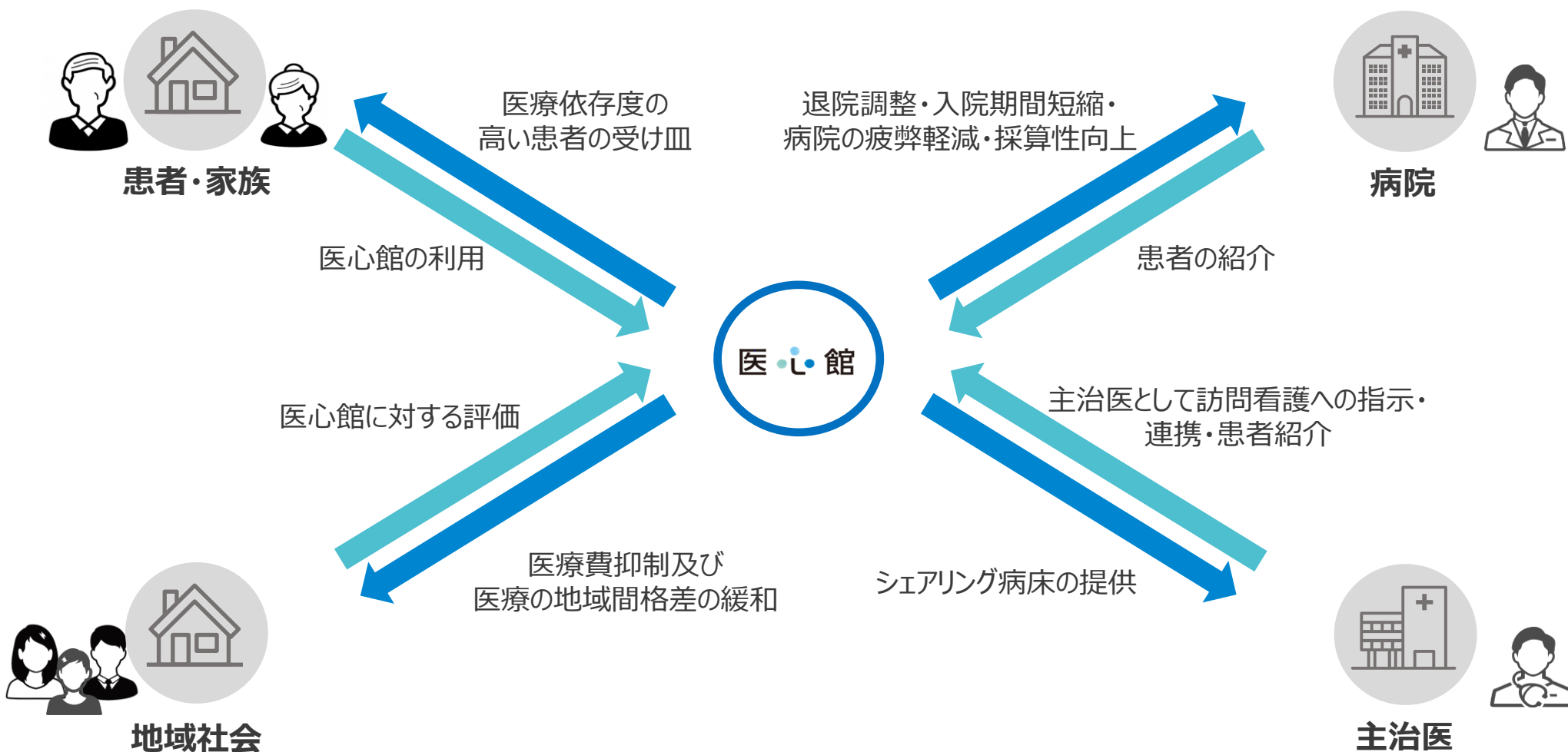
65歳以上人口当たりの地域別療養病床分布



出所：総務省「人口推計」、厚生労働省「医療施設調査」2019年10月

- 患者・地域社会・医療関係者の3者全てに利益をもたらす社会課題解決型事業
- 地域ごとの医療ニーズに対応することで、地域医療に欠かせないプラットフォームになることを企図

地域医療を支えるプラットフォームとしての医心館



本資料には、当社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、当該記述のために、一定の前提を使用しています。当該記述または前提は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ございますが、詳細は、当社の決算短信、有価証券報告書をご参照下さい。なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

【お問い合わせ先】

株式会社アンビスホールディングス IR課

電話：03－6262－5085 / Email：ir_contact@amvis.co.jp